

事業実施報告

開催日	令和5年5月27日（土）～5月28日（日）		
事業名	テンパークボランティア養成事業		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	45名
対象	青少年教育ボランティア活動に興味関心をもつ高校生、大学生、社会人等		
関係機関名	滝沢消防署・滝沢北出張所		

状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

【事業の内容】

ボランティア活動に興味関心をもつ大学生が、講義・演習を通してボランティア活動の基本を学び、活動する上で必要な資質や施設を活用するためのスキルを身に付けるため、事業のプログラム構成に当たっては主体的に取り組める体験プログラムの提供を意識した。

「ボランティア活動の意義」、「青少年教育」の講師には、ボランティアについての造詣が深く、自身のボランティア経験も豊富な東北学院大学情報学部データサイエンス学科の渡邊圭氏を招聘した。事前に、法人ボランティアを交えたオンラインミーティングを実施し、ボランティアの意見をプログラムの中に反映させた。講義の初めには、初対面の参加者同士が緊張を解いて講義に臨むことができるようアイスブレイクを行い、主体的に意見交換をしながら活動できるようにした。

「青少年教育施設の現状と運営」では、社会教育施設としての役割や独立行政法人国立青少年教育振興機構として全国の施設とのつながり等について説明した。

「ボランティア活動の技術」では、野外炊事を通して、野外活動を行うための技術・知識を学び、安全管理の徹底を意識させるようにした。

「青少年教育施設におけるボランティア活動」では、制度の仕組みやボランティアを募集する事業について説明した。プロパー職員からは、ボランティア経験が社会人となりどのように役立っているのか説明した。また、法人ボランティアも活動の説明、アイスブレイクの演習等を行った。

「安全管理」では、滝沢消防署・滝沢北出張所の職員3名が救急救命法について講義・演習をした。

【成果】

渡邊氏の講義・演習では参加者同士がグループワークを行い話し合う中で課題解決に向かっていかなければならない場面を多く設けたことにより、主体的、意欲的に取り組む姿が多く見られた。講義の内容はボランティア活動の意義について深く考えることができる構成になっており、今後、参加者がボランティアをしていく上での原点となっていくことが期待できる。また、法人ボランティアを含めたオンラインミーティングを事前に行ったことにより、今年度はKYT（危険予知トレーニング）を取り上げた。参加者からは「考えを共有することで新たな見方を得られた」「子供の目線に立つことが大切だと感じた」との声が寄せられた。

救急救命法では、滝沢消防署・滝沢北出張所の職員3名に来ていただいたことにより、3グループに分かれて心肺蘇生法を反復練習することができ、より実践的な演習となった。

法人ボランティアに効果的に参画してもらうため、事業の趣旨説明や野外炊事の実地踏査を事前に行った。班付き活動では的確なアドバイスをするなど参加者一人一人に寄り添いながら活動を補助する様子が見られた。また、昨年度の自主企画事業の取組紹介や法人ボランティア企画のアイスブレイクを実施したことにより、法人ボランティアとしての活動を体験的に知ってもらうことができた。法人ボランティアの事後アンケートにおいても満足度が100%となるなど、今回の事業を通して法人ボランティアの自己有用感を育むことができた実感することができた。

【課題】

「安全管理」の救急救命法の講義を滝沢消防署・滝沢北出張所に27日に依頼していたが、日程が変更となり28日の夜間となってしまった。このため、野外炊事（夕食）が早い時間となってしまった。

状況写真



「講義・演習の様子」



「講義・演習の様子」



「野外炊事の様子」



「講義・演習の様子」



「救急救命法の様子」



「救急救命法の様子」